

## 日銀いよ金融教室 第121回：「500円玉」

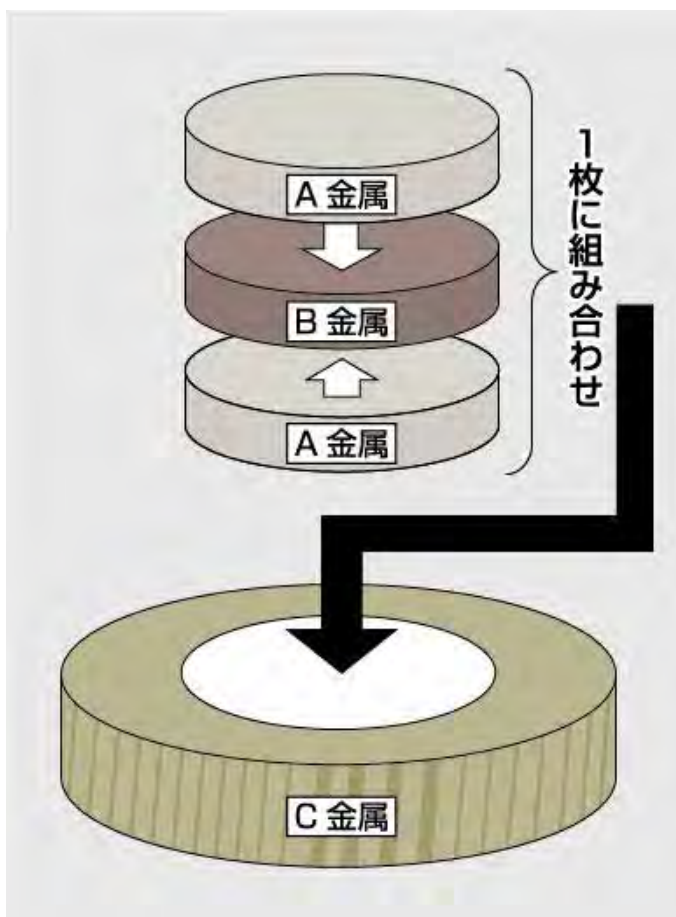
2020年9月9日（水）（愛媛新聞E4編集係）

近々、お札のデザインが変わるのはご存じですよね。昨年、元号が令和に変わる直前、2024年度上期を目途としたお札の改刷が発表され、大きなニュースとなりました。特に、1万円札の肖像が、長年親しんだ福沢諭吉から渋沢栄一に変わることは注目され、ドラマの主人公に起用されるなど、各方面で話題となりました。

同時に、500円玉も新しくなると発表されたことはご存じですか？これは来年度上期、もう目前です。発表文には、新たな偽造防止技術として①素材に新技術のバイカラー・クラッドを導入②縁に「異形斜めギザ」を導入③縁の内側に微細文字を加工—とあります。

①はA金属2枚の間にB金属を挟み、それをC金属の真ん中に組み込むこと。いうなれば、小さく円くりぬいたハムサンドをちくわの輪切りに差し込むようなものです。②は今もある斜めギザの幅などを、場所によって変えること。③は縁の内側に小さく「500YEN」などの文字を彫り込むこと。最終的な意匠は、今後変わり得ます。

500円玉は1982年に登場しました。それまでの500円はお札。岩倉具視が描かれた青い500円札は子どもにも手が届き、私にはポチ袋に入ったお年玉の思い出です。国民の人気も高く、例えば国会議事録には、当時の大蔵大臣が「500円玉では香典袋に入れづらい」との声に「今後も500円札はなくなるので使ってほしい」と返した、との発言が載っています。私の母も「500円玉は安っぽく見える」とか「かさばるし重い」などと言っていました。



もともと500円玉は、お札では使えなかった自販機で使えるし、ポケットに突っ込んでおくにはお札より気軽。500円あれば、電車やバスで結構な距離を乗れるし、昼ご飯も食べられ、いざというときのため子どもに持たせるお金としてもちょうどよい。そして、500円玉は社会に定着していきます。

この500円玉、世界の中でみれば、通常使われるものとしては、かなりの高額コイン。他にはスイスの5フラン（約580円）があるくらいでしょうか。そのため偽造もされます。500円玉と同様の素材ながら価値は10分の1程度の韓国500ウォンを変造し、自販機で使用するなどの犯罪が発生しました。そこで2000年、素材を白銅からニッケル黄銅にして電氣的性質を500ウォンとは変え、偽造を防ぎました。他にも、見る角度により文字などが浮かび上がる「潜像」や斜めギザなどの技術が導入されました。これが今の500円玉です。

キャッシュレス決済が浸透する中、将来の現金利用はどうなるのでしょうか。それでも皆さまのニーズがある限り、日本銀行は、お札やコインを、誰でもいつでも、安全確実に利用できるよう提供して参ります。（日本銀行松山支店長・小山浩史）